



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation

公益財団法人鳥取県国際交流財団

とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鳥取国際通讯

No. 108

Dec. 2013



写真 ハルビン氷祭り【中華人民共和国／黒竜江省ハルビン】

Contents 目 录

とっとり国際塾スタディツアー報告 02

Tottori International Study Tour Report
鳥取国際塾学習旅游团報告

まちなかでロシアを知ろう! in とっとり 03

Get to Know Russia in Downtown Tottori
在鳥取市中心認識俄羅斯

研修員の紹介 04

Trainee Introduction
研修員介紹

財団新規職員紹介 04

New TPIEF Staff
財団新員工的介紹

世界の冬の暮らし 05

Winter Lifestyles around the World
世界各地之冬天的生活方式

民間交流団体活動紹介 06

Local Social Group Activities
民間交流團體的活動介紹

鳥取に新しい風を 07

Tottori in a Different Light
鳥取新風格

JICAデスクより 07

The JICA Desk
JICA的辦事處

英語版・中国語版ダイジェスト 08-09

Information in English and Chinese
英文版文摘・中文版文摘

情報掲示板 10

Notice Board
信息布告欄

とっとり国際塾

スタディツアー報告



財団では、県と関係のある国の歴史や文化等を学ぶ「とっとり国際塾」を開催しています。平成25年度はロシアをテーマに選び、社会や歴史的背景、文学やロシア語、鳥取県との交流などについて、7月から8月にかけて3回の公開講座を行いました。その後、ロシアについてより理解が深まるよう、現地の人々との交流や文化施設での研修などを体験するスタディツアーを実施し、ロシア・ウラジオストクとハバロフスクを9月17日～24日まで訪問しました。ツアー参加者による感想をご紹介します。

ウラジオストク	9/18	仁川空港を経てウラジオストク空港到着 シベリア抑留中死亡者慰霊碑献花、日本国総領事館表敬
	9/19	ウラジオストク滞在 アルセーニエフ博物館、旧日本人街散策 ルースキー島視察（極東連邦大学キャンパス） ウラジオストク日本センター訪問 極東地域の鳥取県サポーター等との交流夕食会
ハバロフスク	9/20	ウラジオストク国立経済サービス大学訪問 鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンター視察 ホームビジット シベリア鉄道でハバロフスクへ
	9/21	ハバロフスク滞在 ハバロフスク地方博物館、極東美術館視察 シベリア抑留中死亡者慰霊碑献花
	9/22	市内中央市場視察、郊外のダーチャ体験
	9/23	日本国総領事館表敬、 ハバロフスク日本センター訪問
	9/24	仁川空港を経て帰国

ロシアは広い!

ウラジオストク空港に降りたって

初めてロシアの地を踏んだ時の第一声は、広い!高い!でっかい!左右に広がる広大な土地、真っ青な空はどこまでも高かったです。

シベリア鉄道に乗車

車窓はどこまでも続く白樺林、日本では見られない風景でした。

一晩かけてずいぶん遠くまで移動したと思っていたのに、地図を広げてロシア全体を見ると、それはほんのちよつとの距離でした。



ロシアは日本に片思い?!

80%のロシア人が日本に好印象

2012年の内閣府外交調査では、ロシアに親しみを感じる日本人は約20%、親しみを感じない人は約75%という結果だったそうです。80%のロシア人が日本に好印象を持っていると聞いて、ある意味、日本人はロシア人の想いに応えられていないと思いました。

日本語学習者が多い

領事館によると、ウラジオストク市の人口約65万人のうち、日本語を勉強しているのは2千から2千5百人程度。日本語を教える小学校もあり、大学、日本センターでも日本語講座が設けられているそうです。日本語を学習している学生や卒業生と話をし、日本の文化に興味を持ち、日本語を真摯に勉強し、高いレベルの語学力を身につけていることに驚嘆しました。

ホテル近くのスーパーで買い物をしていると、日本語で商品のアドバイスをしてくれた人がいました。こんな所にも日本語を勉強している人がいると感心させられました。

市内を走る車は日本車が9割以上

運転者の顔を見なければここは日本かと錯覚するくらい。日本車は安全、故障しないという評判が高いため、あらゆるメーカーの日本車が走行していました。

日本製品に対する信頼



極東地域で日本が身近になっているのは、日本製品に対する信頼が日本に対するイメージを作りあげているからだと感じました。

スーパーには、高い値段にも関わらず、安全性の高い日本の食品が並べられていました

ロシアと日本が両思いになるには...

自分が想像していたロシアと違い、人々の表情は明るく、バイタリティにあふれた町には活気が感じられました。つくづく、実際に訪問してみないと分からないものだと思います。

出会った人々はとても親切な人が多く、温かい国でした。少しずつでもロシアの現実や魅力を周りの人に発信していけば、人々の認識も変わりロシアと日本が両思いになれるはずだと感じました。

沿海地方での鳥取の知名度は、日本の都道府県の中で東京に次ぐ2番目

鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンターを訪問して



現在ウラジオストクにサポートセンターを開設しているのは、富山県と鳥取県のみ。観光・経済交流支援、日本への旅行の相談などを受けており、鳥取県のみならず日本の窓口の役割を果たしているという印象を受けました。

温かいもてなし、心に残った交流

ホームビジット (ロシア人の家庭を訪問)

一緒にピロシキを作りながら、ロシアの暮らしや文化、学校生活や将来の夢などいろいろな話を聞きました。意外だったのは、家の中で靴を脱ぐこと。家の中を一番くつろげる場所にするために、汚れたものとけんかは家に持ち込まないそうで、とても良いことだと思いました。

ダーチャ体験*

*郊外の菜園つきセカンドハウス

ダーチャの所有者が心から歓迎してください、とても居心地の良いところでした。



ダーチャの菜園で

所狭しと野菜や果物が植えられている中を木イチゴやぶどうを試食したり、ダーチャでの生活について話を聞きました。食事時には、心の

こもった料理がテーブルにのりきれないほど並べられました。



ダーチャの女主人と

交流を通して

日本語を学ぶ若者たちとの夕食会、大学や家庭、ダーチャの訪問などで交流が深まりました。大学では歌や踊りの歓迎もあり、食べながら飲みながら踊りながらといった、一緒に体験した交流は強く心に残りました。

料理を作りながら心が通じた人たちがいます。共同作業を通しての交流は言葉の壁を容易に超えさせてくれました。



ウラジオストク国立経済サービス大学での交流会

まちなか
で

ロシアを知ろう!

～in とっとり～

開催日: 11月22日(金) 会場: パレットとっとり市民交流ホール

とっとり国際塾スタディツアーの報告会を兼ねて、県民の皆さんにロシアをより身近に感じていただける機会となるよう、様々な文化体験プログラムを通してロシアを紹介しました。

鳥取市在住のロシア出身の女性、イリーナさん、ナタリアさん、エレナさんにご協力いただきました。

スタディツアー写真パネル展



ホフロマ塗りの木のスプーンを使って



ロシア民謡に合わせて、スプーン2本でリズムをとりました。

ロシア民謡に合わせてダンス



報告会



行ってみてびっくり!現地での感動体験や印象に残ったことなどを、ツアー参加者が皆さんに話しました。

ロシアの特産品の紹介



森に咲く野生の菩提樹の花から集められた蜂蜜の試食と白樺樹液ジュースの試飲。

ロシアのスカーフ(プラトーク)の巻き方教室

ロシアのスカーフは、色柄も様々で、とても華やかです。冬の防寒対策になる巻き方、コートやスーツに映えるおしゃれな巻き方など、色々な巻き方を教えてもらいました。



マトリョーシカのお話と絵付け体験

マトリョーシカのルーツは日本の箱根細工の入れ子人形だと言われていること、人形の中からまた人形が出てくるのには、子孫繁栄の意味が込められていること等を聞いたあと、実際に絵付けをしました。



ロシアの民芸品を展示

ロシア料理教室



ピーツを使った赤いスープ・ボルシチ、ロシア風ピラフ、ミモザサラダを作り、試食しました。



／ロシア料理教室で調理した1品／

ロシア風ミモザサラダ



ゆで卵の卵黄を小さく砕くか裏ごししたもの振りかけて飾ると、卵黄がミモザの花に見えることから名づけられたサラダ。

【材料 4人前】

サバの水煮缶 1缶
じゃがいも 2コ
にんじん 1本
たまねぎ 1コ
卵 4コ
マヨネーズ 1カップ
プレーンヨーグルト カップ1/2
塩、こしょう 適量

作り方

- 1 卵は硬くゆで黄身と白身に分け、白身はみじん切りに、黄身は小さく砕いておく。
- 2 それぞれの野菜をゆで、皮をむき、みじん切りにする。
- 3 サバの水煮をフォークで細かくつぶす
- 4 マヨネーズとヨーグルトをあわせておく
- 5 お皿に順番に、みじん切りのジャガイモ、マヨネーズとヨーグルト、みじん切りの人参、2層目のマヨネーズとヨーグルト、つぶしたサバの水煮、みじん切りのたまねぎ、卵の白身を層になるよう重ね、最後に黄身をふりかけ全体に広げたらできあがり。

鳥取県 海外研修員の紹介

鳥取県では交流している国や地域から、研修員や県費留学生を受け入れています。今号では、中国・吉林省から来日した研修員をご紹介します。



平成25年度自治体職員
協力交流研修員

ジン チュンラン
金 春蘭さん

(中国吉林省延辺朝鮮族自治州龍井市出身)

私は中国では、吉林省龍井市対外友好交流協会で働いています。吉林省東部にある龍井市には12.5万人の朝鮮族が住み、市の総人口の66.4%を占めています。中国でも特に朝鮮族が密集し、昔からその文化が最もよく保存されている場所の一つです。例えば、キムチ、お餅など朝鮮族の伝統料理が代々受け継がれたり、昔の建物などがそのまま保存、管理されたりしています。朝鮮語を教える学校もあり、家庭内でも朝鮮語が使われています。また、伝統舞踊、伝統スポーツなどの教室も開催されています。

鳥取には今年6月に来て、県庁で研修をしています。鳥取での暮らしにまだ完全には慣れていませんが、周りの人々が親切にしてくださいのおかげで、毎日楽しく暮らしています。鳥取は豊かな自然の中で二十世紀梨をはじめ、スイカなどいろいろな農産物が生産されるだけでなく、新鮮な海の幸も水揚げされます。8月14日には全国的にも珍しい鳥取しゃんしゃん祭りに参加し、伝統的な踊りも体験でき良い思い出になりました。

8月28日と29日には、県の市場開拓課の梨の新品種のブランド化のためのイベントに参加しました。28日は、東京・銀座で秋の味覚を先取りできる鳥取県梨新品種「新甘泉」と「なつひめ」の大試食会を開催しました。今回のイベントでは梨の試食とともに販売もしました。一番人気があったのは新甘泉で、すぐに売り切れました。翌日は、食のみやこ鳥取県アンテナショップ5周年記念イベントに、朝早くから参加しました。今回は先着70名のお客さんに梨を無料で配りました。また、店ではほかの鳥取の特産品の販売も行いました。そして、エキュート品川での梨フェアでは、梨で作ったお菓子和ジュースの販売もしました。私は今回のイベントで、特産品のPR方法や、職員の皆さんが鳥取の特産品に誇りを持って一生懸命働いている姿に感動しました。さらに、鳥取のいろいろな特産品を県外で見られてよかったです。



▲鳥取しゃんしゃん祭り

帰国後は、鳥取県で学んだ対外経済交流、貿易の知識を生かして龍井市と鳥取との交流や経済発展を促進させたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

中国語
担当

財団の / 新しいコーディネーターを紹介



中国出身

オウ メイケン
王 明娟

本所勤務

●月・金曜日／9:00～17:00
●水曜日／9:00～12:00

日常生活に関する相談を受けるほか、中国語で情報を提供したり、中国語を話したい方とのチャットも受け付けています。

你好(ニーハオ)、王と申します。中国の山東省出身で、日本に来て8年目になります。初めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

故郷は山東省の一番東の海沿いにある「石島」という港町です。水平線から見える日の出はとってもきれいです。「魚鍋(トウモロコシの粉で作った団子と魚の赤味噌煮をひとつの鍋で一緒に蒸し上げる料理)」や「鰻餃子」など、港町ならではの家庭料理もお勧めです。また伝説によると、唐の時代に日本の慈覚大師円仁が石島の「赤山法華院」で修行していたそうです。今では、この法華院は日中韓の友好の象徴として観光地になっています。ぜひ、遊びにいらしてください。

これから、日本での留学や生活経験を生かして、コーディネーターとして頑張ります。中国語・中国のこと・日本での生活上の悩みなど、困ったことがあればお気軽にお声をかけてください。



世界の冬の暮らし

県内在住の外国出身者に、寒い国・地域ならではの食文化や防寒方法、伝統行事などについて聞きました。



中国

こくりゅうこう
【黒竜江省ハルビン市】 China

「暖気(ヌアンチー)」という暖房器具のおかげで室内はぽかぽかです。公共のボイラー施設で湯が沸かされ、配水管を通して各家庭にあるパイプ状の「暖気」に送られます。そこを流れる湯の熱で部屋が暖かくなります。



▲暖気(ヌアンチー)

「ハルビン氷祭り」は世界三大氷祭りの一つに数えられるイベントで、毎年1月上旬から2月下旬まで市内の公園を中心に、蛍光灯やLEDでライトアップされた氷の彫刻建造物が展示されます。コンテストも開催され、世界各地から有名な彫刻家が集まります。



リトアニア

Lithuania

風邪をひいた時には、ハーブティーを飲んだり、熱を下げるために冷たいタオルで身体を冷やすなどの民間療法が用いられてきました。「タイム」や「リンデン」などのハーブティーを飲むことで自己治癒力を引き出す方法が受け継がれています。

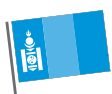
四旬節^{*}の前日に「ウジュガヴェネス」という祭りがあります。この祭りには、寒い冬の終わりを祝い、春を歓迎する意味が込められています。人々は仮面を付けて街を練り歩き、パンケーキを食べる習慣があります。パンケーキは太陽を象徴しています。



▲ウジュガヴェネスでの仮装の様子

^{*}しじゆんせつ

四旬節…キリストの復活を記念する復活祭前の40日間を四旬節といいます。



モンゴル

Mongolia

寒さをしのぐため、多くの人が羊毛を使用した民族衣装を着ます。また、狐やウサギの毛皮で作った帽子やブーツも欠かせません。内側も毛で覆われていてかなり厚手です。

羊、ヤギ、馬肉を骨付きのまま煮込むスープ料理を食べ、体を温めます。風邪予防には、「アールツ(発酵乳を加熱し濃縮したもの)」を飲んだり、スープにかけたりします。また、ビタミンCが豊富な「サジー(小さなオレンジ色の実)」を煮出し、蜂蜜や砂糖を加えて飲みます。



▲民族衣装「デール」



カナダ

Canada

カナダの防寒対策に欠かせないのは、「ロングジョン」。綿素材でできた厚みのある肌着で、日本の「ももひき」のような形で、男性用だけでなく女性用もあります。

北米最大規模の冬の祭り「ケベック・ウィンター・カーニバル」には世界から30万人以上の観光客が訪れます。氷が張ったセントローレンス川でのカヌーレースや水着姿でのバレーボール大会などユニークなイベントも行われます。



▲氷の上ではカヌーを押す姿も見られます



フィンランド

Finland

薬用として、「黒スグリ(カシス)」の実を絞ったジュースにスプーン1杯のウォッカを加え、風邪予防に飲みます。最近では、唐辛子を用いた辛い料理も体を温めるためによく食べます。



▲黒スグリの実

真冬なのに湖で泳ぐ人たちもいます。湖に張った氷に穴を開けて飛び込み、湖の岸辺に建ててあるサウナで体を温めます。これを繰り返すことが体にいいと言われています。



ロシア

Russia

風邪予防に、ニンニク、玉ねぎを使った料理を食べる習慣があります。また、蜂蜜は昔から鼻風邪や喉の痛み、気管支炎などによく効くといわれ、「天然の薬」として親しまれています。

外出する時は、「シューバ(毛皮のコート)」や「ドゥブリヨンカ(革製のコート、裏地は毛皮)」を着て、羊毛のフェルトで作ったブーツ「ワレーンキ」を履いて防寒します。



▲刺しゅう入りのワレーンキ